

国語(小)部会実技理論研修会 終了報告

<p>テーマ</p>	<p>「子どもの表現活動に生きる読解の授業づくり ～生き生きと表現させるために、いかに読ませるか～」</p>	
<p>日時</p>	<p>平成30年 8月31日(金)</p>	
<p>会場</p>	<p>江別市立中央小学校</p>	
<p>講師</p>	<p>青木 伸生 氏 (肩書:)筑波大学附属小学校 教諭</p>	
<p>参加者</p>	<p>95名</p>	
<p>研修会 の 様子</p>		<p>中央小学校の4年生に対して、国語「一つの花」の授業を行った。フレームリーディングを基本に、対比に着目して読み取っていくことで、物語の主題にせまる読み方を実践していた。</p>
		<p>子どもたちとのやり取りをしながら構造的に板書を進め、授業の終わりには、本時の学習内容や軌跡を一目で振り返ることができる板書が完成していた。</p>
		<p>授業後の研究協議(事後研)および講演会の中では、これからの国語の授業(特に物語の読解について、「構造と内容の把握」を行うために、いかにフレームリーディングを活用するか、を話題の中心に話し合いを持った。参加者との質疑応答を交えながら、文全体の構造の把握、教材の系統性、構造的な板書の重要性について、教えていただいた。また、新学習指導要領の意図について、わかりやすく解説していただいた。</p>